

1. 開会

2. 副委員長の選出

- ・副委員長の選出方法について意見がなければ事務局案を提案することです承。
- ・事務局からは田村委員に引き続き、校長会の南委員を提案。
- ・事務局案を各委員に諮り、承認される。

3. 委員長あいさつ

今日は「ちびっこ探検学校ヨロン島」「第 12 次北海道小中学生海外研修団」の報告と、ニュージーランドラグビーキャンプの審査がありますのでよろしくお願ひします。

4. 報告事項

27 年度に補助を行った 9 件の国際交流事業について報告。

- ①第 40 回ちびっこ探検学校ヨロン島 (平成 28 年 3 月 26 日～4 月 1 日)
- ②第 12 次北海道小中学生海外研修団 (平成 28 年 3 月 28 日～3 月 31 日)
- ③ニュージーランド ラグビーキャンプ (平成 27 年 7 月 20 日～7 月 28 日)

※ニュージーランド ラグビーキャンプについては、前回の審査委員会で実績報告済み

【事務局】

- ・事業実績報告を事務局より説明

【委員】

- ・ヨロン島についての審査委員会を行った日が出発の 1 週間前であった。事業を企画しているところと、行政が別組織なので、参加者の把握が難しいという話しはあったが、実施要綱では事業実施の 1 カ月前に申請が必要となっている。
- ・申請が遅くなって出発の 1 週間前に審議会を開催したのか、申請を受けていたが審議会の開催が 1 週間前だったのか。

【事務局】

- ・期限内に申請を受けているが、全員分の申請があがってくるのを待っていたため、遅くなっ
てしまったかと思う。

【委員】

- ・申請者の出発が、旭川空港や千歳空港など各々であったことや、補助金を算定するにあたって交通手段の確認に時間を要したという説明も聞いている。

【委員】

- ・できるだけ早めに申請者の把握を行い、事前ミーティングのような形をとってから富良野を出発する仲間として参加してほしいという思いもある。

【事務局】

- ・市の広報でも、事業を企画しているところと市へ両方手続きが必要である旨を記載している。
- ・出発前に、ただ、補助金を出すだけではなく、参加者を集めて目的などを説明しながら、しっかり交流や勉強するよう伝えて出発していただく必要はあると思うので、事務局もそのように努めていきたい。

【委員】

- ・税金を使って参加するので、勉強して大人になったときに、市や市民のためになることを前提として送り出しているのでは、ある程度話しをまとめてほしいと思う。

【委員】

- ・広報誌に掲載している補助の部分の書き方について、審議を行うのに「市から補助を出しています」と補助することが前提となった書き方になっている。
- ・そういう制度があるという書き方ならわかるが、最初から補助金を出す前提ではおかしいのではないかと。書き方を少し考えたほうがいいのかという気がした。

【事務局】

- ・同じ記事の最後に、「国際交流審査委員会で、補助の可否と金額を決定します。」と謳っているので整合性を持たせた書き方をしていきたい。

5. 議 事

4件の国際交流事業について審査。

①ニュージーランド ラグビーキャンプ プログラム（平成28年7月21日～7月28日）

【事務局】

- ・事務局より申請の内容について説明

【委員】

- ・出発が翌日からであり、もし、補助対象にならなかつたらどうするのか。

【事務局】

- ・初めの申請はおおむね1か月前に受けているが大まかなものであり、補助金を算定するうえで対象にならないものもあることから、内訳をさらに要求したため審査委員会の開催が遅くなってしまった。これは以前からの課題でもある。

【委員】

- ・請求書を取り寄せるのに時間がかかってしまうとのことだが、補助金が必要であれば、すぐに再見積もりをもらうことはできないのか。

【委員】

- ・以前には、帰国後報告会をやるよう意見が出て、市長へ報告会を行ったことがあった。また、事業への補助が行事化している部分はある。

【委員】

- ・申請から審査委員会、補助の決定までの期間をしっかり持つことが必要。

【委員】

- ・補助金の支出が決定されているのであれば、審議の必要がないのではと感じてしまう。

【委員】

- ・申請者側の努力も必要だと思う。

【委員】

- ・申請書の書類として残しておく請求書の日付が、1カ月を切っているのはどうなのか

【事務局】

- ・今後、反省を踏まえて申請書類の受理や審査委員会を開催できるよう対応していきたい。

【委員】

- ・ラグビー協会の補助金を受けていても富良野市の補助金は使えるのか

【事務局】

- ・他団体の補助金であれば可能

【委員】

- ・翌日の出発ではあるが、補助金の支出をしてもよいか。
- ・子どもたちも楽しみにしているだろうし、手助けできれば素晴らしいと思う。皆さんの意見を伺いたい。

【委員】

- ・問題ないと思う。

【委員】

- ・良い経験になることは間違いないので、私たちも力になりたい。

→委員長より委員へ確認し、承認される。

【委員】

- ・高校生の報告の仕方について、決算書と作文ではどうなのか。

【事務局】

- ・制度が始まった時からの課題ではあった。報告会の開催や、ホームページ、広報などに報告を掲載するなど方法はいろいろあると思う。
- ・こういった制度があること自体、知らない市民も多いので、募集方法も含め市民の方に知っていただけるような具体的な方法があれば参考にしたい。

【委員】

- ・過去には、大人が参加した時も広報へ報告を掲載したこともある。農業の研修を受けた方には実際に来てもらって報告を受けたこともあり、とても大事なことだと思う。

【委員】

- ・審議会の委員だけではなく、市民の方にもわかるように聞けたらよいと思う。この事業も、ここ何年かは申請される事業が固定されている感じがしている。
- ・市の広報も、ページ数が増えてしまうと読めなくなってしまうが、地道にやっていく必要はあると思うので報告の仕方は大切だと思う。いいアイデアがあればと思う。

【事務局】

- ・過去には、市長へ報告したこともある。できれば市民の方もラグビー部が頑張っていることが伝わるよう報告してもらおう方法を考えていければと思う。

6. その他

【事務局】

- ・今後の審査委員会や、報告あり方、PRの方法についてどうしていったらよいか。

【委員】

- ・制度の要綱は市のホームページから見られるのか。

【事務局】

- ・要綱はホームページで確認できないので、見られるように対応していきたい。

【委員】

- ・どういった事業や研修が対象になるのか事例を挙げて紹介してはどうか。その中で、要綱や補助率や要綱を明示してもよいのでは。

【事務局】

- ・制度を利用した人の名前を出さないまでも、過去の実績のような形でホームページに掲載は可能。

【委員】

- ・市のホームページは見づらく、自分の見たい情報までなかなか届かないので、QRコードで確認できるようにするとよいのでは。

【委員】

- ・良い意見も出たので、そのように進めていただければと思う。